

# 教室だより（各学年・専科より）

## 1年生

夏休みの谷原小の校庭、通りに面したフェンスにはたくさんの朝顔が咲いて、道行く人の目を楽しませていました。これは1年生が育てた朝顔をおすそわけしたものです。夏休みを楽しむ1年生の笑顔のようでした。

夏休みが終わり、楽しいこと、話したいことをいっぱい抱えて登校してきた子供たち。さっそく、「夏休み報告会」で楽しい思い出を交流しあいました。9月からは、漢字やカタカナ、繰り上がりや繰り下がりの計算など新しい学習がたくさん始まります。1番の楽しみはこれから始まる「絵の具」の学習です。

## 4年生

夏休みのプールに元気いっぱいに参加していた4年生。検定も積極的に受け、たくさんの子供たちが自分の級を進めることができていました。自分のめあてに向かって努力する姿が見られうれしく思いました。

理科の学習で育てていたツルレイシは花を咲かせ、大きな実をつけ始めました。「大きくなってきたよ。」と観察に来ていた子どもたちはうれしそうに話していました。ツルレイシのように子どもたちもぐんぐん成長してくれることを期待しています。

## 2年生

### わくわく生活科

《めざせ野菜さい名人》という単元では、野菜に関心をもつなかで野菜も自分達と同じように生命をもっていることを感じ取り、それらを大切にできることをねらいとしています。

トマトやサツマイモの栽培のほかに、7月には、給食に出されるトウモロコシの皮むきをしました。ほとんどの子が初体験でしたが藤原栄養土さんの「ひげの数だけつぶ（実）がある」というお話に興味をもち、それを確かめるかのように丁寧に皮をむいていきました。そして、十数枚目にピカピカに光るつぶを目にしたときには「宝石みたい!」と感動していました。その日の給食は、「じゅわっと汁が口に広がったよ」などとじっくり味わいながら食べたのでした。

普段はゆで上がったものしか見ていない子供たちですが、この体験を通して野菜への関心がさらに高まったようでした。

## 5年生

### 武石移動教室

9月25日から2泊3日で武石へ移動教室に行きます。

「肝試しは、男女ペアだって、だれと一緒に行くんだろう」（どきどき）

「初めてお母さんと離れて、しかも夜まで友達と一緒に」（わくわく）

「教室ではできない学習。ハイキングや博物館見学」（るんるん）

不安でもあるし楽しみでもある移動教室。たった3日間でも、大きく成長して帰ってきます。それを見つけてくださることが、次への意欲へとつながります。

## 3年生

真っ黒に日焼けした元気な顔が教室に戻ってきました。長かった夏休みも終わってしまうとあっという間でしたが、楽しかった思い出を我れ先に話してくれました。家族と一緒に取り組んだ自由研究やプール、普段できない体験、など夏休みの成果を発表し合います。

育ててきた枝豆もはじけ、まんまるな大豆になりました。いろいろなものに姿を変える大豆。その一つとして「とうふ」を作ります。ほかにもいろいろ姿を変える食品や身の回りのものに目を向け興味をもって調べ、まとめる学習に取り組めます。

## 6年生

### 連合水泳記録会

じりじりと照りつける太陽。きらきらと光る水面。懸命に泳ぐ練習をした7月と夏休みを終え、9月5日(木)にはいよいよ連合水泳記録会が開催されます。

人間には、誰だって得意不得意があります。しかし、「自分の全力を尽くそう」「頑張っている友達を応援しよう」という気持ちも、誰だってもてるはずです。

連合水泳記録会で、今までの練習の成果を出し切り、さらに成長していってくれることを期待しています。ご家庭でもあたたかい応援をお願い致します。

## ノートの達人になろう ～自分のためのノート作り～ 算数少人数 佐久間

夏休みが終わり、もうすぐ1年間の折り返し地点です。今年度、算数科では、下の①～③のように、自分の考えをしっかりと発信できるようノートの書き方を大切にしています。お子さんのノートは見やすく書けているか、ちょっと見てあげてください。

① 見やすく書く ・文字や数字はていねいに書く。下敷きを入れる。 ・赤と青の2色の色鉛筆が筆箱の中にあるとよいです。 ・定規を使う。筆算や答えの下など定規を使って線を引く。他にも大事なところは四角で囲んだり、線を引いたりできます。 ・行間を少しあける。

② 自分の考え・人の発言を聞く ・問題を自分の力で解くことは大事です。自分の頭で考えたことを、言葉や図や絵にしてみましよう。また、自分が思いつかなかった考えや自分が必要だと思ったことは、ノートに付け加えましよう。

③ 学習の感想を書く ・毎時間行うことは難しいと思いますが、「発見があったなあ」と思ったことや「なるほど」と思ったことは、言葉にしてノートにまとめましよう。

算数のノートは、単元によっては少々もったいないと思う使い方の時もありますが、見やすくいつでも自分がその学習を振り返ることができるノート作りの練習だと思って大胆に使ってほしいと思います。少人数教室では、特に「自分の考えをノートに書く」という時間を大切にしています。同時に自分の考えを相手に「伝える」、つまり相手が分かるように「説明する」力を育てています。問題がただ解けるだけでは、本当にその問題の本質を理解しているとはいえません。分からない人に分かるように説明することができるということは、本当にその問題が分かっているということです。そのためにも、自分のノートを分かりやすく書く習慣を身につけることは、算数の学習効果を高めることにつながります。自分のためのノート作りは、算数のみならず他の教科でも実践してほしいです。